

開発建設部だより

「国立民族共生公園 施設の整備状況」

～体験型フィールドミュージアム体験学習館の完成！！～



札幌開発建設部

国立民族共生公園は、自然環境等を活かしながらアイヌ文化の多様な要素を一般の人々が体験・交流する**体験型のフィールドミュージアム**として、整備しており、園内には、多様な来園者が快適に過ごせる魅力ある空間を形成するための施設を配置しています。この度、当部で整備している**体験学習館**が完成しましたので、ご紹介します。



国立民族共生公園の全体基本設計

【体験学習館の施設概要】

体験学習館は、修学旅行生をはじめとする団体の来園者等を主たる対象として、体験交流等活動のうちアイヌ語、伝統的生業（狩猟・漁労・採集・料理等）、工芸（木彫、刺繍、織物等）について学び体験できる施設です。

構造規模：鉄筋コンクリート造平屋建て 延べ面積947㎡

設計者：(株)ドーコン

監理者：北電総合設計(株)

施工者：(株)丹波組

【立面の計画】

- 勾配屋根・庇は周辺の山並みに溶け込む形状
- ハイサイドライトを設け、室内は明るく開放感のある空間
- 広場への誘導と外部との一体感を高めるガラススクリーンを持つ外観
- 色彩は、ポロト湖や周辺の自然の移ろいにも溶け込むグレー系



全 景（正面）

【屋外スペース】

- 来館者の一時待機場所、外部との繋がり、様々な活動を行うスペース
- 弧を描いた柔らかい曲線形状の「屋根、屋外スペース」



屋外スペース

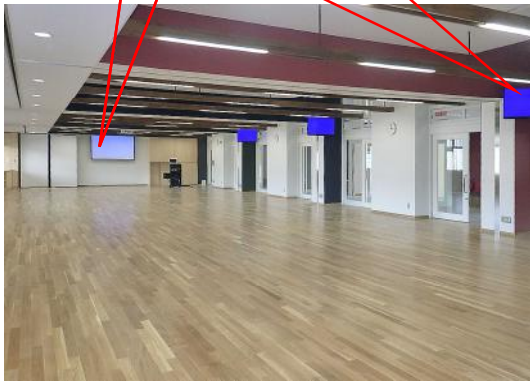


広場側の外観

【体験学習室】

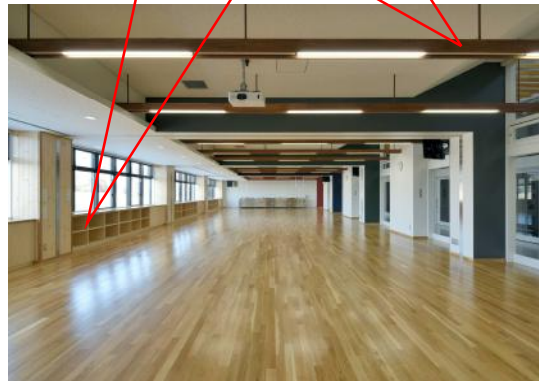
- 200名規模のフレキシブルな学習プログラムを実施できる部屋が2室
- 移動間仕切りで50名規模の全8室に分割ができ、一室は、調理試食体験が可能
- 自然光・風を取り入れ、木材を内装に使用し、明るく温もりのある空間
- 部屋毎にも使用できる映像・音響設備を設置

体験学習室に映像用スクリーン1機、
モニター3機を設置

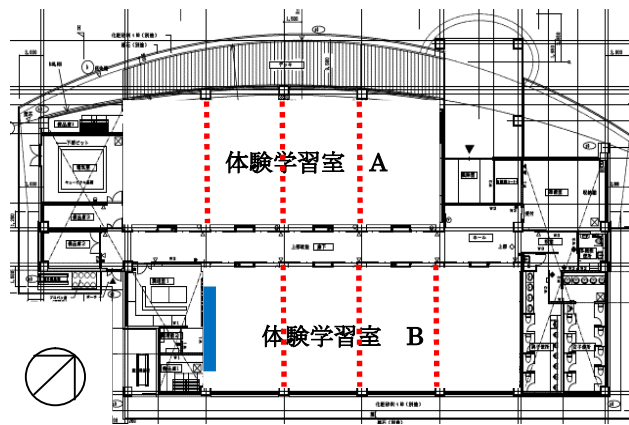


体験学習室 A 移動間仕切り開放
200名規模の利用が可能

窓下の収納棚や照明格納の造作材には
木材を使用



体験学習室 B 移動間仕切り開放
200名規模の利用が可能



平面図

..... 移動間仕切り
——— 流し台・作業台

移動間仕切りで
50名×4部屋に分割可能



体験学習室 B 移動間仕切り



調理・試食の体験用として
流し台・作業台を設置

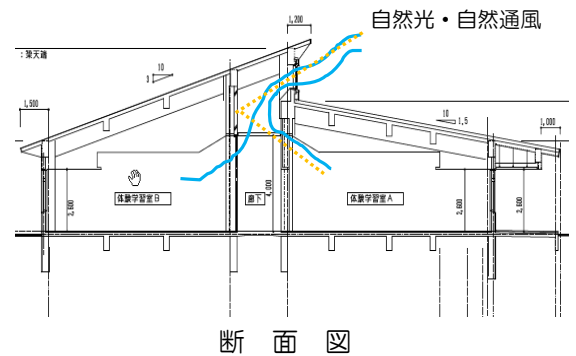
体験学習室 B 流し台・作業台

【ホール・廊 下】

- 自然光を取り入れ、快適な空間を確保できる断面計画
- 利用者が談話、休憩ができるベンチを設置
- 情報発信を目的とした展示スペースを設置

自然光は廊下の欄間を經由して体験学習室へ

ハイサイドライトから自然光
明るい快適なホール・廊下



ホール・廊 下



ベンチ

ベンチを設置 (4カ所)



展示スペース

展示スペースを設置 (4カ所)

国立民族共生公園は、2020年4月24日の開園に向けて、関連工事も含め工事を進めているところです。今後も各施設の工事の進捗状況について、随時紹介する予定です。

また、北海道開発局のホームページにおいて、国立民族共生公園の基本計画、整備に向けての検討過程を確認することができます。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/tosijyu/ud49g7000000jqql.html>